社会科研究委員会

1　研究テーマ

社会的な見方・考え方を深める社会科授業の創造
～子どもたちが思考・判断していける授業～

2　研究内容

(1) 【子どもの見方・考え方の深まり】

社会科における『確かな学力』＝『見方・考え方を深めていく』姿を，授業者の学級（学校）の子どもの姿を通して具体的にとらえ直していく。

□「新規参入者が増えていないのに，村はワインぶどう振興を続けていいのだろうか」について，友の考えや資料（農家や役場の方のお話等）と関わり合いながら，どれだけ思考し，自ら最終的な判断ができていたかを，子どもの具体的な姿から検討していく。

(2) 【資料の内容】

問題解決学習の中で，事実（資料）とのかかわりをどう支援すれば，見方・考え方を深めていけるのか。

□子どもの考えの根拠が，どういった資料（事実）や体験から語られているのか，検証資料（役場の方のお話）の内容は学習問題を追究していくために適切であったかを，子どもの具体の姿から検討していく。

(3) 【つける力と地域素材の教材化，単元・授業構想，学習問題のあり方】

つける力を明確にした地域素材の教材化とつける力がつく単元構想，授業構想，学習問題のあり方。

□本地域教材の内容は，つける力「地域の課題を見いだし，地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度を養う」からみて適切であったか，単元構想・授業構想・学習問題はつける力からみて適切であったかを子どもの具体の姿から検討していく。

(4) 【教師の具合的な出・支援】

授業の中での事実（資料）の提示や読み取らせ方，資料や友の考えをつなげ関連させて生かしていく工夫，問い返し等，教師の具体の支援はどうあったらよいか。

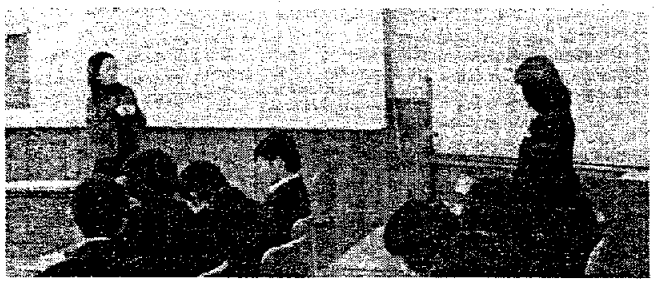
□本時の検証資料（役場の方のお話）の扱いや子どもの考えの取り上げ方やつなげ方等の支援はどうであったかを，子どもの具体の姿から検討していく。

3　研究の成果

(1) 指導の実際

研究日授業：高山中学校　1年1組　　授業者　松山　由美　教諭

『身近な地域の調査の仕方～気づいて築く　わが故郷　信州高山～』



①【学習問題成立までの経過】子どもたちは，「高山村の地理的，産業的な特色調べ」から「高山村の課題」を見いだす中で，「農業人口の減少に対する対策の一しての『ワインぶどう栽培』」に着目した。「なぜ，近年ワインぶどうの作付面積が増えているのか」について，資料や栽培農家・役場の産業振興課の方からのお話を聞くことで，高山村の気候に適した作物であり，生食用のぶどうに比べ作業も楽で，コストもかからないという面をもっているワインぶどうを，農業人口の減少対策と遊休農地の活性化のために村が振興していることを調べていった。そして，栽培農家の方のお話の中に出てきた「近年は新規参入者が出ていない」という事実に出会い，学習問題「新規参入者が増えていないのに，村は本当にワインぶどう振興をしていいのか」を設定した。

②【学習問題に対する子どもたちの考えの類型】子どもたちは，それまでに学習してきたことを根拠に，それぞれ自分の考えを持った。

■現状のまま続ける：7名　　■変えていった方がいい部分もあるが続ける：24名

■続けない：4名

③【本時の主眼】ワインぶどう栽培の新規参入者が増えない事実を知った子どもたちが，本当に村はワインぶどうの振興を続けていいのだろうかについて話し合う場面で，ワインぶどう振興の是非についてお互いの考えをやりとりし，担当の産業振興課の方の思いをもとに話し合うことを通して，ワインぶどう振興のこれからやさらなる工夫について考えることができる。

④【本時の授業構想】自分の立場を明確にしながら，自分の考えを述べ合っていくなかで，「続けない」という考えの子どもたちも，「こいうすれば続けていける」というように「続けていくための工夫」を述べていく展開に発展していく。そして多くの工夫についての考えが出されたところで，「その考えを村に聴いてもらいたい」という意識を取り上げて，村の産業振興課の課長さんに子どもたちの話し合いを聞いての考えを話してもらい，再度自分の考えを練り直すという展開を構想した。